

地域の実情と課題

当市は少子高齢化と人口減少が進行しており、特に若年層の女性の減少が顕著である。一方で、女性の労働力は増加してきているものの、M字カーブの解消には至っていない。この問題を解消し、地域の活力向上を図るためには、都市圏に出なくても一人ひとりが自分に合った働き方ができる起業・就労支援、女性の職業生活におけるキャリアの再構築を進め、経済的な自立促進が必要と考えられる。

事業の特徴

託児などにより子育て中の女性も受講しやすい環境を整えるとともに、各受講者に対する就業支援を行っている。就業支援では、個別の相談や就業に関する講座・就業相談の紹介などの情報提供に合わせて、主にデザインスキルを生かした仕事とのマッチングやアドバイスを行い、実際の就労につないでいる。

事業の効果

働く時間に制約のある女性もスキルを生かして在宅ワーカーとして自身に合った働き方ができるよう、女性デジタル人材の育成として支援した。そこで、就職や就業相談、デザインスキルを生かした仕事をするなど多くの受講者が行動に移された。

受講者全員の行動率:80%

※行動率... (行動に移した人数/受講者数)

目的・目標

[目的]育児や介護等で働く時間に制約がある女性がデジタルスキルを習得し、時間や場所の影響を受けにくいデジタル分野での就労につなげることによって、一人ひとりのライフスタイルに合った多様な働き方を可能にし、働く時間に制約がある女性の就労機会の拡大をめざす。

[目標]参加者人数15人→達成(54人)

連携団体

合同会社LOCO

実践性の高い教育の実施や、就業に関して地域に密着した情報に基づくサポートを行うことのできる市内事業者。

今後の課題

女性デジタル人材のすそ野を広げるために、講座修了後もデジタルスキルや実績が少ない女性デジタル人材に対する継続的な支援や、より高度なデジタルスキルの習得を目指す人材の育成を見据えた講座内容の見直しなど、事業を継続して人材育成に取り組む必要がある。

デジタルスキルを生かした新しい女性の働き方支援事業

【女性デジタル人材育成による、子育て・介護等で働く時間に制約のある女性の就労支援、新しい働き方の浸透】
市内在住の女性に対するデジタル・ビジネススキル習得のための講座を実施する。

講座終了後には受講者の就業に向けた支援を実施する。

◎対象：デジタルスキルを身につけ、仕事をする意欲のある女性

◆デジタルスキル習得のための講座

① デジタル科

デジタル技術が普及した社会で再就職・起業等
就業する際に必要となるデジタルスキルを学ぶ。
開催回数：5回（授業のみ）



② デザイン科

デザインの基本を学び、実践的なスキルとセンスを学ぶ。
開催回数：8回（授業・実習）



◆講座終了後の就業支援

①近況調査 ②情報提供 ③仕事の提供